

泌尿器科

スタッフ

役職 氏名	出身大学 ／専門分野	専門医 認定医
泌尿器科医長 鄭 泰秀 (テイ ヤスヒデ)	山口大学卒(平成3年) 山口大学大学院修(平成8年)	日本泌尿器科学会 専門医・指導医
泌尿器科医師 塩見 研二 (シオミ ケンジ)	山口大学(令和2年)	

概要

当院泌尿器科では尿路(腎臓・尿管・膀胱・尿道)・男性性器(前立腺・精巣・精巣上体・陰茎)および内分泌臓器である副腎を対象とし、泌尿器科一般(尿路性器腫瘍・尿路感染症・尿路結石症・排尿障害・尿失禁など)の診療を行っています。

腎臓癌・膀胱癌・前立腺癌など尿路性器腫瘍に対しては手術療法・放射線治療・化学療法とさまざまな治療を組み合わせ治療を行っています。膀胱癌に対しては2022年10月より光線力学診断を用いて、より確実に癌病変を切除するように努めています。2024年4月より当院において画像誘導型強度変調放射線治療装置が導入されました。腫瘍のみをできるだけ正確に照射できるため、周囲の正常組織のダメージを少なくすることができます。高齢者や心臓・呼吸器系の合併症をもった患者さんも多く、手術を行うことが難しいケースが増加しています。そのような患者さんに対して放射線治療を行うことを検討しています。また、限局性あるいは局所進行性の前立腺癌に対しては根治が期待できるので積極的にを行っています。

進行性・転移性の腎臓癌や尿路上皮癌(膀胱癌・腎盂癌・尿管癌)に対しては血管新生阻害剤・免疫チェックポイント阻害剤・抗体薬物複合体が使用されることが多くなっています。これらは従来の抗癌剤とは異なる副作用も多く、他科の先生や薬剤師さんと連携して副作用の対策・管理に努めています。

転移のある前立腺癌あるいは去勢抵抗性(ホルモン治療で効果がない)前立腺癌では新規ホルモン剤・化学療法薬・分子標的薬・放射線治療薬の投与が可能となり、患者さんにとって治療選択幅が広がっています。

現在抗癌剤治療を受けられる方は日常生活・仕事・趣味・副作用・医療費等不安なことがたくさんあると思います。また、高齢の患者さんも非常に多いです。患者さんには今後の治療について望むことを話していただき、医療者側からは詳細かつ理解しやすい情報を患者さんに提供し、納得して治療を行っていただくことを心がけています。

実績

○手術症例

	件数
腎腫瘍	7
尿管腫瘍・腎盂腫瘍	6
経尿道的膀胱腫瘍	52
膀胱全摘除	1
前立腺癌放射線治療	8
経尿道的前立腺切除	26
内シャント造設術	23
前立腺生検	44



(鄭 泰秀)